

五色池通信

307 2012年 11月21日 発行

中土手に自然を戻す市民の会

東京都江戸川区東小松川3-35-13-204

〒132-0033 Tel 3654-7240 Fax 03-3654-7256

HP: <http://members2.jcom.home.ne.jp/nakadote/>

11月24・25日 江戸川区水辺の活動交流会

11月24.25の両日、タワーホール船堀1階の展示ホールで、江戸川区内で水辺の自然体験活動や水上スポーツなどの活動をしている団体が集まり、第10回江戸川区水辺の活動交流会が行われます。江戸川区で見られる魚や様々な活動の展示を行ない、様々な体験コーナーもあります。荒川クリーンエイド・フォーラムと下平井水辺の楽校・中土手に自然を戻す市民の会では、共同で投網体験やヨシ笛作り・ヨシズ編み体験などが出来る体験コーナーを設けます。カヌーなどの水上競技の団体ではボートこぎの体験も出来ます。

24日午前10時から、タワーホールの近くにある新川で、和船の乗船会も行われます。初めて実施された一昨年は、佐藤が櫓を漕いで乗客を乗せましたが、今年は別の船上から投網を打って乗船客にお見せすることになり、果たして魚が獲れるかどうか気になります。

「荒川源流の森を守るために」と題して秩父市環境立市推進課長の**大野輝尚氏**の講演が行われます。

荒川クリーンエイド・フォーラムでは、今年9月に秩父市が呼びかけた間伐残材を運び出す作業のボランティアに参加者を募って参加しました。

荒川クリーンエイド・フォーラムは95年から荒川源流域の大滝村(現秩父市大滝)の人たちと交流してきましたが、源流域の森林を守るためには、流域市民が源流の状況に思いを馳せ、特に源流域の木材を活用することが求められています。

江戸川区はいち早く上下流交流に参加し、新川の橋や火の見櫓などに源流の木材を使うなど、上下流の連

帯を始めています。今回の交流会でもそうした江戸川区の展示が行われる予定です。

両日とも、大勢のスタッフの参加を御願います。



2010年の交流会で講演する**大野輝尚氏**
中央は**土屋信行氏**、右は司会の**中嶋美南子さん**



間伐材の運び出し 2012年9月



新川での和船乗船会 2010年11月

行事案内

11月24.25日水辺の活動交流会

タワーホール船堀1F展示会場10時～

和船乗船会 24日10時～ 新川

12月9日(日) 中土手 クリーンエイド

12月23日(日) 倉庫整理と忘年会

10月8日秋の鳴く虫を探そう

9家族29人が参加し、たくさんのバッタ類を捕まえて、楽しく遊ぶことが出来ました。今年も中土手五色池周辺では、トノサマバッタをはじめ、たくさんの昆虫が見られ、子供たちは満足していました。夏には水が涸れていた池も少し水がたまってザリガニ釣りも出来、子供たちはたくさん捕まえていました。

参加する子供の年齢層が低くなっているのが最近の傾向で、鳴く虫よりも、バッタやザリガニに子供たちの興味が集中し、鳴く虫のコオロギやカンタンを持ち帰る子も今回はいなかったようです。

昼は持ち寄った具に牛肉とサトイモを加えて芋煮会を行ない、大好評でした。

昨年は行事の参加者が比較的少なかったのですが、今年は以前と変わらぬ参加状況になり、昨年の原発事故に伴う放射能の危険性に対する警戒感が薄らいだように思われます。中土手五色池周辺の、空間(地上1m)の放射線量は0.1マイクロシーベルト/h前後で、区内の路上値と同レベルになっています。



写真 エンマコオロギ

写真 トノサマバッタ

東なぎさ大クリーン作戦

11月13日(火)東なぎさ大クリーン作戦が行われ、参加しました。秋の作戦は、都漁連内湾漁協が主催し無料で船を出して実施するもので、葛西東渚鳥類園友の会とえどがわエコセンター、荒川クリーンエイド・フォーラムが協力して実施しています。

約百人が船に分乗して東なぎさに渡り、数えるゴミ拾いと、野鳥・植物・底生動物の調査を行いました。

毎年、春と秋に2回のゴミ拾いを実施していることもあり、ゴミは以前に比べて少なくなっていますが、それでも散乱ごみは、燃やす44、燃やさない16、ペットボトル22 合計82袋ありました。

生物調査は、野鳥、植物、底生動物のそれぞれについて、望遠鏡や実物を示しながら説明がなされ、底生動物の説明をされた高木さんは「東なぎさは、岩で囲まれた湾内に砂地や泥の干潟やヨシ原、そして砂地の草原や樹木など変化に富んだ環境が整ったことによって、生物多様性が豊になっています」と解説。



また、鳥類園友の会の飯田さんは、オリンピック誘致運動で葛西臨海公園に巨大なカヌー競技場建設が計画に盛り込まれようとしており、この貴重な自然が台無しになる危険性があり、皆さんと力をあわせてやめさせたいとアピールしました。

これとは別に、えどがわエコセンター自然共生社会づくり委員会が9月27日に行った水辺の環境調査では、東なぎさのすぐ外側の海域で大きなクロダイが数匹投網で獲れ、海の豊かさを実感しました。

(佐藤正兵記)